

1 医療に関すること

診断や治療等に関する疑問は、まずは主治医に相談しましょう。
主治医と充分に話し合い、納得して治療を受けることがとても大切です。



② 医師に聞きました～医療者とのコミュニケーションに関するQ&A

Q 主治医に、自分の希望や質問をうまく伝えるにはどうしたらよいですか？

医師に病状や治療、不安なことを質問することは重要です。診療を進める上で相互理解が必要だからです。しかし、医師の前では緊張して質問ができなくなる方もいらっしゃいます。そのような時のために、事前にノートや紙に書いて、診察時に活用するとよいでしょう。医師から説明を聞く場合、事前に質問したい希望を伝え、お互いに時間的な余裕があることが望まれます。病状を理解して不安を解消し、納得した上で治療をすることをお勧めします。

主治医との間に溝を感じて、どうしても質問しづらいと感じた場合には、看護師や他のスタッフに相談しましょう。

練馬総合病院 副院長 栗原直人先生

Q 診断結果を一人で聞くのは怖くて不安な場合はどうしたらよいですか？

病気が進行している場合であっても、医師は病状を正しく説明します。現実を受け入れがたいこともあると思います。一人で聞きたくない場合にはご家族などと一緒に説明を聞きましょう。

最近、アドバンス・ケア・プランニングが推奨されています。ご本人を中心にご家族、医師、看護師、薬剤師など医療関係者や介護関係者など医療や生活をサポートする方々と一緒に、ご本人が最も大切にしていることを踏まえて、今後の医療や介護の方針を繰り返し考えることです。あなたが一人で悩まず、医療機関のスタッフと相談してみましょう。

練馬総合病院 副院長 栗原直人先生

💡 主治医と話をする時のポイント

① メモを取る

専用のノートを作り、日付を付けて順番に書いておくと、あとから見直せます。



② 質問リストをつくる

主治医にリストを渡して読んでもらう方法もあります。優先順位をつけ、聞きたいことを簡潔にまとめるとよいでしょう。

* 家族や信頼できる人に同席してもらって、説明の内容を後で確認できたり、代わりにメモを取ってもらうことができます。

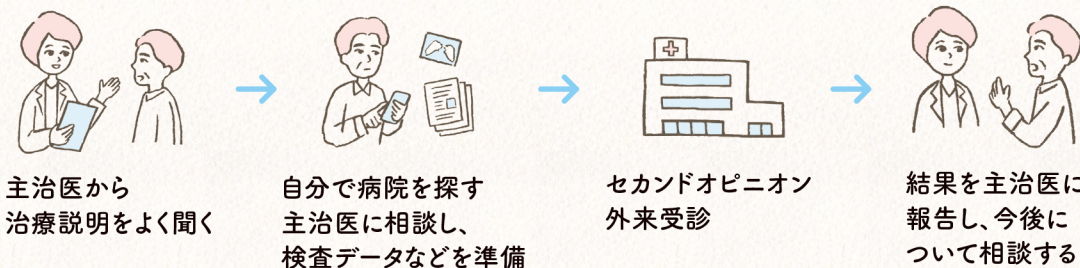
📝 メモ Memo



「セカンドオピニオン」とは？

主治医とは別の医師に、診断や治療などについての意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。病院を変えるためのものではなく、納得して治療を受けるために利用するものです。

セカンドオピニオンの流れ



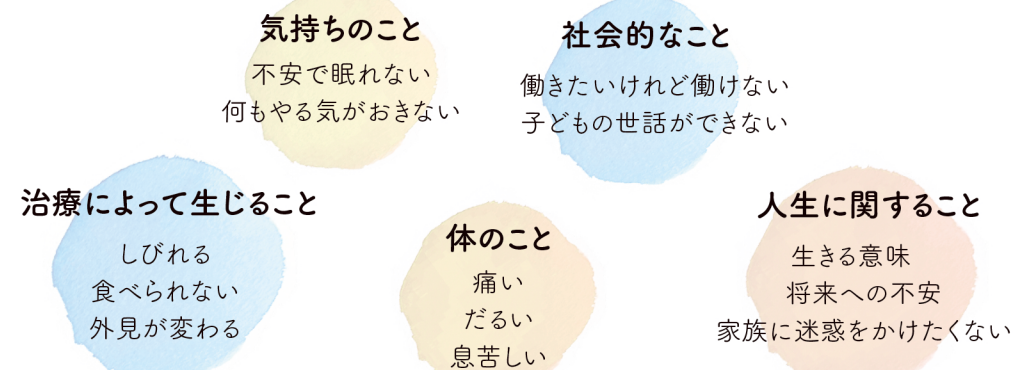
📝 メモ Memo

がんとわかったときから始まる「緩和ケア」

“緩和ケア”とは、がんの診断と同時に始まる治療のひとつ。身体や心のつらい症状を緩和し、安心して治療・療養生活が送れるよう、がん患者さんや家族をサポートするケアのことをいいます。

緩和ケアは、身体や心の様々な苦痛をやわらげます

～がんに伴うつらさには、以下のようなものがあります～



出典：国立がん研究センター「がん情報サービス」

つらさや困りごとがあるときは、担当の医師や看護師などに相談してください。

気持ちの落ち込みが続く場合は・・・

がんの診断を受けると、多くの方が不安や気持ちの落ち込みなどを経験します。時間がたつにつれて落ち着いていきますが、気持ちの落ち込みにより、眠れない、食べられないなどのつらい症状が2週間以上続く場合は、専門家によるこころのケアが必要かもしれません。できるだけ早く、担当の医師や看護師にご相談ください。